

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100515		
法人名	社会福祉法人 陽恵福祉会		
事業所名	グループホーム陽恵苑(Aユニット)		
所在地	〒690-0024 島根県 松江市 馬潟町 104番地 1		
自己評価作成日	平成25年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成25年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=329

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成25年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・今年度はグループホーム陽恵苑の周囲を取り巻く地域との関係づくりに力を入れてきました。その一環として、社会福祉法人陽恵福祉会設立(H24年10月1日)にあたり陽恵福祉祭を行い(H24. 9. 29)に行い、地域の方々ボランティア、出店、野菜の提供等々の協力を頂きました。又地域運営推進会議についての在り方など地域の方々のご意見を聴いたり、知己の防災訓練、集団清掃、などにも参加する事が出来ました。12月19日には社協の方の口添え、もあり寿会、福祉委員等のご依頼により竹矢公民館に於いて認知症についてグループホームとはどんなところか等のお話をさせて頂きました。今後も引き続き地域の中で利用者の方が、参加していくことが出来るか、地域の支え、協力していくことが出来るか25年度も引き続き地域との関係を深めていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。] Aユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の朝礼に夜勤明けが出て唱和しているがパート職員は唱和には参加していない。又各ユニットのリビングや、玄関に提示しているが常に意識はできていない。 朝礼時に確認意識できることはよいと思う。 理念の実践を念頭に置き実践に励んでいる。 		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> 毎月よらい喫茶に出かけ地域の方と交流をしいる。 地域の行事や、自施設の祭り事業に関してもボランティアでの参加や、出店などの協力もして頂いている。 防災訓練、地域の方への認知症の講演もおこなった。 		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 年1回陽恵福祉祭を行っており地域の中の施設として利用者の方への理解と生活を知って頂く機会を持ち、当施設での生活を感じて頂いている。行事等交流の際に理解していただくよう努めている。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議においては情報の収集、施設における活動などの情報交換や、地域の情報、協力、連携できる関係。 現場の職員は参加したことがないので理解ができていない。 		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 当施設の担当者により取り組まれています。 現場職員は直接市町村と携わっていないので事情を理解していない。 		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の尊厳を保持することが重要であるという認識に立ち日常のケアに取り組んでいるが、利用者に危険が及ぶ場合は施設長に相談し判断を仰ぎ指示に従って行動することになっている。 職員と話し合いをしているが、危険が及ぶ場合については短時間の拘束をするケースもある。 		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 虐待は行われていないと思っているが、はっきりと確認するすべがない職員同士で信頼するしかない。 言葉づかいが悪いことがある。 虐待について勉強会は行っていないが、報道等で虐待の記事がある時は職員同士で話し合ったり、自施設に置き換えて考えたりはしている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・日常生活自立支援事業や、成年後見人制度について学ぶ機会を経ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・利用者、家族との会話の機会を持ち不安等もたれない様疎通の良い関係を保つようしている。 ・理解と納得経ていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者、家族の意見等には常に報告するようにしている。 ・面会時に要望や質問等聞くようにしている。 ・利用者、家族との会話の機会を設け思いを訊くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・会議の中で出た意見やアンケート、要望事項に対し反映されていると思うが、すべてを反映するのは難しいと思う。 ・職場の意見はあまり反映されていない。 ・定期的に会議を行い機会を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・能力給や、夜勤手当の増額等できる範囲でしていただいている。・申し訳ないくらい努めてもらっている。 ・好きなことを(文句を言える)言える職場の環境(給与賃金格差は別として)であれば恵まれていると思う。 ・職場環境の整備は努められていない気がする。 ・改善の余地はあると思う。・運営での職員の意見を聞く機会が設けられていない。 ・雇用する側とされる側では職場環境や、条件の面でかなりへだたりがあるように思われるが、意見交換や、意識調査が行われていない。・人数を増やし勤務体系の見直し、職場環境を整えて欲しい		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員の技術向上等の為定期的に研修を受ける機会を設けられている。 ・研修への参加を勧めまた参加者による報告会を実施スキルの向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・定期的に同業者との交流会があり参加し、悩みや介護についての意見交換のできる会が提供されている。 ・利用者の希望されていることに理解し問題解決に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・職員(主に居室担当)が積極的にかかわりを持ちコミュニケーションをとるようにしている。・認知の状況によっては本人の希望等に沿いかねることもある。 ・会話の成立する形であれば本人の意向に沿ったサービスを行うようにしている・困難な方についてはその方の情報をもとに良い関係作りに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面会に来苑されたり、担当者会議などの席でご家族からのご要望をできるだけ聞くようにしている。苑からの提案なども話させていただき忌憚ない意見を聞かせていただくよう心がけている。・面会時や、お便りで利用者の状況を伝えたりお話しすることで安心していただけるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・利用者、家族の面会時には利用者の最近の様子なども伝え、ここでの生活を安心してもらえるよう伝え信頼関係を築けるよう努力している。 ・ケアプラン作成(担当者) ・担当者会議の実施		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者さんを家族と思い接している。尊敬の気持ちを忘れず職員の気持ちを押しつけない様心がけている。 ・利用者さんとは家族のような気持ちで接し良い関係づくり努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族様には利用者の方の施設での様子を面会時には報告して利用者の方が不安な時は家族にも協力してもらえるような関係づくりをしている。 ・毎月1回の家族様への報告や、お便りで写真なども見ただけで苑での様子を理解していただいていると思う。 ・ご家族さんの負担にならない程度		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・なじみの関係を継続支援はできていない。 ・家族、親類、友人の面会時は居室にてゆっくりすごしていただけるような環境作りをしている。 ・あまり行われていないと思う。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・難聴の方、性格の合わない方、面倒見の良い方、などテーブル席を配慮したり楽しく会話ができるよう工夫している。 ・時々職員も一緒に加わり穏やかにすごせる環境作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・できていない。 ・退院された家族から手紙などいただいたりするとよい関係だったのではと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の意向に沿った個別ケア等も行いながら苑での生活に張りを持っていただけるように努力している。 ・検討していると思うが本人本位の難しさを感じる。 ・意志の伝わる利用者に限られている。・なるべく利用者さんの希望に添える暮らし方に努めているができていないと思う。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・一人一人の生活歴について把握に努めている。 ・入居者状況調書に目をどうし把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人一人の能力を生かし本人の意向に沿った生活をしていただいている。毎月の会議においてもカンファレンスを行い全職員で共通認識を持つようにしている。 ・今本人にできることを自分でしていただき少しの変化にも気づけるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月ケア会議を行い一人一人の変化やケアの在り方等職員同士で話し合いをし、利用者に合った介護の実践をしている。・ご本人のニーズ、家族からの要望、現場担当者からの情報ケア記録等をもとにケアマネよりアドバイスをいただき計画の作成に携わっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日の個別のケア記録をもとに情報を共有し状態変化があれば話し合いしプランの見直し生かしていると思う。 ・きずいたときにも話合っている。・日々の様子は申し送りをし職員間で情報を共有に努めている。・プラン後の利用者の様子等を安全会議報告書で結果確認、担当者とのカンファレンスにて情報収集等を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・できていると思う。既存のサービスにとらわれないまたサービスの多機能化については努力不足だと思う。 ・毎月の行事担当を決め利用者のニーズに沿った内容考え季節を感じていただける行事内容にしたり利用者の残存機能を生かした行事、外部との交流行事など施設サービスの一環として職員全員で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の公民館の御茶の会に定期的に出かけている。 ・毎年新そばを食する機会をもうけ、来ていただいている。地域の皆さんの協力によりささえられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・定期的に往診に来ていただいているが、受診が必要な場合は受診対応を行っている。 ・総合病院に定期的に受診が必要な方には受診の援助を行っている。受診後は家族に状況を報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル、表情当変化があったときはすぐ報告し早期発見を心掛けている。 ・ケアマネが、看護師であり日常の中での変化はすぐ報告し、主治医の指示により適切な対応を行っている。1月より訪問看護STとの契約により医療連携も行うようになった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時等は管理者が対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・担当者が支援しその情報を職員と共有し皆で取り組んでいる ・管理者、担当者等による十分な話し合いにより終末期について本人、家族の希望に沿い職員が共通認識の上対応している。 ・1月より医療連携体制加算の手続きにより訪問看護との連携もできるようになり緊急等の連携も強化されるようになった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・応急手当の研修者が伝達講習を職員に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防防災訓練については地区の消防団長の把握消火器点検の依頼、使用方法の確認、災害時の対応について苑内研修があり参加した。 ・苑の防災担当による年間計画により年2～3回の災害避難訓練等を行い地域の防災訓練にも参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人格を尊重した言葉かけに注意しているが時々馴れ合いの言葉かけになることがある。・いつも尊敬の気持ちをもって接するように心がけているができないときもある ・命令口調にならない、名前で呼ばないなど気を付けて声掛けをするようにしている。・利用者様であると同時に人生の大先輩として向き合うように心がけているが利用者様によっては話しやすい、片苦しくならないよう考えて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・ご本人の希望に添えられるよう意見を聞き判断がつかない場合は選択できるよう働きかける。 ・利用者本位の立場から自己決定を最大限尊重することを念頭に入れています。・可能な限り本人の希望を尊重するよう心がけているつもりだが、決定する判断能力が低下の場合は職員主体になってしまうこともある。・すべての利用者のペースに合わせることは難しい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員側の都合を優先させている場合もある。 ・利用者の方が思い思いに過ごせるよう努めている退屈されているときは本人が好きなことをしてもらっている。 ・職員のペースになってしまっていると感じる。・その日の体調、天候に合わせて考えたり前もって計画(本人の希望による)を立て実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・外出の際のお化粧、洋服の選択、入浴時後の洋服の選択などはご本人と一緒に決めている。 ・入浴後などは鏡の前で整髪してもらっている。 ・更衣などは押し付けにならない様配慮している。・季節に応じた服などすこしやすく生活できることも考慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・本人の力量に応じてやさいを切ったり、盛り付けをしていただいたりすることにより一緒に準備ができた喜びをその食事をみんなにいただくことで自分の役割が喜びにつながっている。食後の洗い物などご本人のできる役割がある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた(刻み食、とろみ食など)食事を提供している。食事量や水分量は記載し1日量を確保できているか確認。脱水や、便秘に気を付け栄養が不足しているようであれば補助食品等も利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の口腔ケアを徹底している。清潔保持に気を付け風の予防にもなっている。義歯の調整など不具合があれば歯科医と連携しすぐ対応できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・オムツの使用を減らしできるだけ日中はトイレでの排泄を行っていただく。 ・本人のパターンを知り尿意がない場合は声かけを行ないトイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・なるべく下剤に頼らず水分をしっかりとって頂き食物繊維や、牛乳、ヨーグルトを提供している。 ・排泄パターンをつかみ、便の硬さなども考え排便がスムーズに行えるようコントロールをしている。・下剤に頼ることも多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・職員の都合で日にちを変更したりすることもある。・入浴のお知らせをするが本人の希望に沿った対応ができない(同性介助)こともあるがご本人に了解は経ている。 ・本人の希望により特殊浴槽での入浴なども行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寒い時期には電気毛布、あんか、エアコンなどで本人が眠りやすいよう配慮している。 ・食後は部屋で休息をされる方は自由にされている。 ・夜間の入眠時間も本人の自由にされている(居室でテレビを見たりされている方もある。) ・季節や体調に応じて室温の調節等もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬の確認や、チェック機能により誤薬のないよう注意している。薬の効能で蓄積等の変化があれば報告している。わからない薬は薬の説明書などで確認することもある。 ・服薬の効能はあまり理解していないこともある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・野菜切、新聞たたみ、食器洗い、塗り絵、洗濯干し等個々のできる仕事や、楽しみができる支援している。 ・同じような作業をしてもらったりと気分転換に至っていないこともあり発案ができていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・職員体制を考慮し希望に添えるよう支援している。(誕生日の夕食、喫茶、買い物など) ・家族の支援により夕食、遠出、買い物、など出かけられることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として事務所で管理しているが、ご本人からお金の希望がなく所持金(少額)は事務所で管理されている。ご本人もお金についてはあまり興味がないようです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話をかけたいと希望される方にはつなぐことはしている。・ご本人が手紙を書きたいといわれる方には相手先に郵送の支援はしている。 ・手紙は書くことがあまりできないためほとんど書くことはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じてリビングの配置や模様替えを行ったりテーブル等の位置を変更したりしている。職員の声のトーンはもっと配慮していかなければと反省している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファ、和室、テーブルの配置、利用者同士が話しやすい環境、廊下のソファの利用など好きなどで過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れたものや、家具、仏壇、鏡台など使い慣れたものが配置されている。テレビなども見やすい位置に変えたりしてゆっくり部屋で過ごせるよう配置されている。思い出の写真なども飾って喜んでいただけるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・使いやすくすぐしやすい物の配置など安全に配慮しながら行うようにしている。 ・自分らしい生活ができるよう支援している。出来ることは見守り、必要以上の介助はしないように心がけている。		